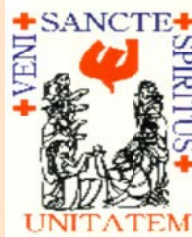


2018年11月4日 (第187号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
「転がっている体、汚い衣服のうちに、人の子らの中で最も美しいキリストを見つけて出すために、私は信仰という目を使います。苦しみが刻み込まれた、この体にふれるには、キリストの両手が必要です。」

最近の諸問題について

最近の当面する教区諸問題について、教区民の皆さんにご理解とご協力をお願いしたいと思っております。2項目について説明いたします。

(1) 司教座聖堂(桜町教会)の耐震工事

準備のため10月から聖堂の立ち入りが禁止されております。主日等のミサは四国会館・二階ホールを臨時聖堂として美しく整え、平日のミサは地下聖堂で捧げられております。

また番町教会との協力関係において、今後の教会の在り方をも同時に策定したいと考えております。

関係において、今後の教会の在り方をも同時に策定したいと考えております。



諏訪 栄治郎 司教

司教座聖堂を耐震本格工事 堅実な予算 教区民で支える姿勢を

くに昨今、世界各地で発生する異常気象による大水害や地すべり、予想もつかない巨大地震と津波など、想定外の悲惨な状況に直面し、確固とした安全が求められております。多くの人が一同に会する聖堂の安全を確保するため、教区責任役員会(司教座聖堂(桜町教会)の耐震診断を行い、その結果、耐震補強工事を実施することを決定いたしました。

工期は今年の12月から約6か月間ですが、起工の教会堂の耐震工事は終

わっておりますが、心配な教会もあります。耐震に関する診断状況の報告を司教座聖堂(11月8日)にいただきたいと思っております。

教会が信徒のみならず、多くの方々に開かれた場であるためにより一層の安全策を講じていく所存です。それはまた、今後の教会の在り方を見定めることにもなると思われ

ます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

次に、上記の安全面と同時に、教区運営のために財政面の確立が求められております。

中でも「司祭給与」の確保が優先課題となっております。来年度(2019年度)からは3年続いた大阪教区管区からの援助金、また教区内外の皆さまからの「教区献金」も終わります。

すなわち「司祭給与」は援助金や献金・遺産という、不確定な「臨時収入」からではなく、教区として確実に予算化する必要があります。

「司祭給与」に関する教区としての基本姿勢は以下の通りです。

①教区は「司祭給与」を不確定な献金や援助金からではなく、堅実な予算をたて「納付金B」を確保する。

②教区運営、宣教活動経費である「納付金A」から司祭給与を流用しない。

朗読奉仕者2人を選任

9月16日(日)主日ミサの中で高松教区終身助祭候補者、小山一氏とR・ウィリアムズ氏の朗読奉仕者選任式が執り行われた。

入祭、集会祈願の後に選任式が行われ、先ず、各々が朗読奉仕者選任を申請する意思の表明を行った。

それを受けて諏訪司教は朗読奉仕者の奉仕職について論じた言葉を述べ、そのあと二人の申請者は朗読奉仕のシンボルである聖書を司教から受け取り、会衆の拍手の中、朗読奉仕者としての最初の奉仕として第一朗読、第二朗読奉仕を務めた。以

そのために、わたしは

下は朗読奉仕を申請した小山一氏の申請のことばである。

「使徒ヨハネ諏訪栄治郎司教様、わたし小山一は、いつくしみ深い神の恵みを受け入れて下さいますようお願いします。」

今後とも神の招きの声を心に深く受け止めて、助祭職への召命の道を全うするために、朗読奉仕者の務めを大切にしながら、必要な準備に励みま

す。

引き続き、お祈りご指導を賜りますようお願い申し上げます。」

2018年8月28日

アウグスチヌス 小山一

その結果、11月中には実際の工事の設計図ができ、12月中頃には着工されることとなりました。工事期間は6カ月程で来年の6月末には完成の見込みです。

工事期間中、聖堂が使えないのはもちろんですが、着工までの期間も、万一の大震災発生時の危険性を考慮し、10月1日以降工事完了まで、聖堂は閉鎖されることになりました。聖堂が使用できない間、8時のミサと英語ミサは四国会館カトリック会館2階で行われます。

尚、10時のメインのミサは番町教会との合同で行います。

番町の司祭信徒数で、耐震診断を実施した業者を交え、工事内容等について話し合いをしました。

その結果、11月中には実際の工事の設計図ができ、12月中頃には着工されることとなりました。工事期間は6カ月程で来年の6月末には完成の見込みです。

工事期間中、聖堂が使えないのはもちろんですが、着工までの期間も、万一の大震災発生時の危険性を考慮し、10月1日以降工事完了まで、聖堂は閉鎖されることになりました。聖堂が使用できない間、8時のミサと英語ミサは四国会館カトリック会館2階で行われます。

尚、10時のメインのミサは番町教会との合同で行います。

番町の司祭信徒数で、耐震診断を実施した業者を交え、工事内容等について話し合いをしました。

その結果、11月中には実際の工事の設計図ができ、12月中頃には着工されることとなりました。工事期間は6カ月程で来年の6月末には完成の見込みです。

工事期間中、聖堂が使えないのはもちろんですが、着工までの期間も、万一の大震災発生時の危険性を考慮し、10月1日以降工事完了まで、聖堂は閉鎖されることになりました。聖堂が使用できない間、8時のミサと英語ミサは四国会館カトリック会館2階で行われます。

尚、10時のメインのミサは番町教会との合同で行います。

番町の司祭信徒数で、耐震診断を実施した業者を交え、工事内容等について話し合いをしました。

耐震工事で聖堂閉鎖 桜町教会 来年6月まで



四国会館2階仮聖堂での初めての主日ミサ
その結果、11月中には実際の工事の設計図ができ、12月中頃には着工されることとなりました。工事期間は6カ月程で来年の6月末には完成の見込みです。

今年春頃には、幼稚園の夏休みにあわせて工事開始を行います。

重ねて皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

具体的ことは次号の「教区報」にてお知らせいたしますが、地区プロックなどでも意見を交わしていただきたいと思います。

宣教師評議会、経済問題評議会は検討を続けてまいりました。

各小教区からの「納付金B」額は、教区全体におけるその小教区の「信徒数」と「通常献金額」の割合に応じて計算される方向で検討が重ねられております。

司教 使徒ヨハネ 諏訪 栄治郎



司教から朗読奉仕者のシンボルの聖書を受け取る小山氏(左)とT・Rウィリアムズ氏

はばたき

今年最後のコラムを書くにあたって、今年度の司牧書簡「社会と共に歩む教会をめざして」を読み返してみたい。

「何をやる」という思いも大切だが、基本は日々、新たにされるという「自」の福音化・霊性の滋養」を大切にすることに。

貧しいながらも、道すがら与えられる出会いをおして、福音宣教の奉仕を担っていくのではないかと。

イエスは「ゆるし」と「いやし」のわざによって、父なる神の被造界への愛に満ちた世話を引き受け、その中に生きます。2千年前のイエスは慎ましい生活をされたいたでしょうが、何より、神の賜物を互いに「分かち合う」生活をしながら、病人、身障者、やもめ、罪人、貧しい人々を優先されていた。

群がってきた人々のために、パンや魚を増やしたという話(マタイ14・15)は、イエスの生き方そのものだったのではありませんか。

清貧は、個人的な修得のための苦行というより、人々が善きものを「分かち合う」徳たと言われている。

私たちがイエスに倣って全ての被造物への神の愛の道具として自分を分かち合おうと生きていきたいと思います。

教会がイエスに招かれた全てのキリスト者の賜物を認め合い、分かち合い、活かし合い、協力し合って福音宣教へ向けて歩いていくことができれば幸いです。

感謝のうちに。



江ノ口教会での集合写真

9月17日朝8時、西讃プロックの教会の信者一緒に高知巡礼の日帰りバス旅行に行ってきました。美味しい昼食と楽しい仲間のおしゃべり、実に有意義な1日でした。

明治3年1月から明治6年5月まで浦上キリシタンの信者116人が、長崎から高知藩へ流配され、39人もの病死者が続出した過酷な環境の中でも全員が信心を捨てず生き抜いた話には、胸を打たれました。

昭和13年に田中英吉神父が私財を投じて建築した教会堂「江ノ口教会は

高知で浦上キリシタン殉教者を偲ぶ

9月17日(月)・敬老の日、坂出教会、丸亀教会、善通寺教会、観音寺教会、池田教会、そして新たに西讃プロックのメンバーになった伊予三島教会の6教会で、高知県に巡礼に行きました。ネルソン神父様とホールへ神父様と信徒合わせて33名の

ロザリオ唱えながら巡礼

日帰り旅でした。旅程は赤岡教会→赤岡牢跡→国清寺→昼食→江ノ口教会を巡り、江ノ口教会でミサに与りました。赤岡教会から赤岡牢跡まではロザリオを唱えながら行列しました。キリシタン関係の本を読んだことがあったので、書いてあった座敷牢の劣悪な環境を思い出しなが

今まで訪れたどの教会にも負けない程、素晴らしく、居心地の良い和風教会でした。最後に、この旅行を通しての圧力で「信仰の自由が確立された日本の歴史を知り驚きました。」

過酷な迫害耐え教え守る

ネルソン神父とホルサになりました。是非一度訪れる事をお勧めします。以前、高知・帯屋町のSC、ショップアズ高知3階に宝石専門店を出店し、8年間暮らしましたが、自分自身初めて見聞きする事ばかりでした。明治の世になっても、キリシタンに対して過酷な迫害があり、諸外国から



善通寺教会 山本晴香、山本香

赤岡牢跡にて



『典礼奉仕』のために (32)

2018年全国典礼担当者会議報告 その1 テーマ: 「信徒による典礼奉仕の共通理解を求めて」

高松教区典礼委員長 谷口広海

毎年、軽井沢のクララ会で行われる「全国典礼担当者会議」が今年も9月4日から6日まで3日間に亘り開催されました。日本の全16教区から典礼担当者、関わりが深い信徒、修道者、委員の総勢40名が一堂に会し、今年のテーマに沿って研修と分かち合いを行いました。日本カトリック典礼委員会委員長である横浜教区・梅村司教の挨拶に続くオリエンテーションの中で自己紹介が行われ、軽井沢のクララ会で行われる「全国典礼担当者会議」が今年も9月4日から6日まで3日間に亘り開催されました。



前田万葉枢機卿

祝) 鹿児島市内宝山ホール(鹿児島県文化センター)で荘厳に執り行われた。これにより2月12日に那覇教区司教として司教叙階されたウェイン・パート師を含め5名の新司教が誕生しています。また、東京教区補佐司教の幸田和生司教の引退が受理され、幸田司教は仙台教区にて東日本大震災の復興支援への取り組みを主に、司牧活動に携わるといことです。

枢機卿は、司教の中から教皇が自由に任命し、任期はなく、教皇選出権を持つ教皇の最高顧問である。重要案件について教皇を直接に補佐する「枢機卿団」は、教会全体の日常的職務について教皇を助ける。

全国で新司教の誕生相次ぐ

今年、日本の教会は新しい司教の誕生を喜びのうちに迎えている。5月20日に前田万葉大阪大司教が日本人では6人目となる枢機卿に親任され、引き続き、7月16日に大阪玉造カテドラルにて大阪教区補佐司教として、クラレチアン宣教会のホセ・アペイヤ師とオプス・デイの酒井俊弘師が司教に叙階された。

また長い間司教空位が続いていた、さいたま教区にもサレジオ会司祭の山之内倫昭師が新司教に任命され、9月23日に浦和明の星女子学園にて荘厳のうちに司教叙階式が行われた。

また、鹿児島教区では同教区司祭で、日本カトリック神学院院長のフランシスコ・ザビエル中野裕明師が新司教として任命され、10月8日(月、

司教召命への道程 高山徹神父が語る 朝樺会四国地区大会

「主であるわたしは、恵みをもってあなたを呼びあなたの手を取った」(イザヤ書42章6節) 9月24日、第47回朝樺会四国地区大会がカトリック坂出教会にて開かれた。朝樺会は、プロテスタント教会との分かち合いの場です。福音メッセージの一部分とも、言えま

高山神父様の家庭は、はじめは、母親のみが信者の家庭であったこと、その環境から司教に叙階されるまで、種々の迷いや悩みを乗り越え、特に、故溝部司教の助言も大きな支えとなったことなど、まさに、聖霊の働きによ

参加者は、本部、東京、和歌山から三名、プロテスタント教会は、香川地区から3教会、愛媛地区から1教会、カトリック教会からは、坂出教会、



朝樺会四国大会に参集した人びと

て、高山神父様が誕生した過程をお話しされました。カトリック教会では、第二バチカン公会議の結果、プロテスタントの各宗派との対話の動きが許され、朝樺会は、次に掲げる「綱領」に基づき、全国各地に発足し、四国内では、現在、香川県、愛媛県の両県内で、活動中です。 朝樺会「綱領」 (1) イエスをキリストと信ずるすべての人々に開かれた超教派の祈りの運動である。 (2) 共にキリストの愛に生かされている者たちの一致を求め、福音の前進と主にある平和を祈る。 (3) 御言葉を聴き、賛美を献げ、心を合わせて祈り、食卓を共にして交わりを深める。 桜町教会 立浪敏夫

熱く語った女性の会・徳島大会

9月1日、鳴門教会において第10回女性の会・徳島大会が開催されました。

諏訪司様は会の始めに、「今日の福音はマタイ福音書のタラントのたとえ話の箇所、今日にぴったりでした。預かったタラントを、穴を掘って隠すのではなく増やしてください。愛の広がりを祈りましょう」と話されました。

今回のテーマは、社会と共に歩む教会に向けてパート2「教会の宝、喜びをさぐる」でした。昨年いろいろな所で福音マーケットをして見えてきた「教会の良いところ」をテーマ別にまとめた資料をもとに、参加者63名(男性10名)が9グループに分かれて分かち合いを行いました。

今回は、グループで意見をまとめるのではなく、それぞれが自分の中にある思いを整理し、深め、確認することを中心に行われました。

そのために、1・聞く、2・問いかける、3・書く、4・話す、5・沈黙、という宝さがしの5つのポイントを基本姿勢として、人の話をよく聞き、尊重し、沈黙の中、自分と向き合う、という分かち合いでした。

それぞれのグループによって、話された内容は様々でしたが、大きな悩みをかかえてこの会に出席された方もいらっしゃいました。分かれ合いの中でその答えは出ませんが、私が印象に残ったのは、乾神父様の「形のあるものに心を縛られない。」という言葉でした。

教会の宝 喜びをさぐる 5つの姿勢で分かち合い

分かれ合いのイメージとして、乾神父様の「形のあるものに心を縛られない。」という言葉が印象に残っています。そして、司教様のギター伴奏でデゼの祈りをし、喜び、苦しみを分かち合う場でありたい。何かあった時にいかにできるか、教会のいいところをどう生かすかが問われています。



平成30年9月9日(日)、台風21号の去った後も、秋雨前線の影響で大雨警報が発令中の中、諏訪司様をお迎えして丸亀教会で「教区民の日」の集いを行った。

丸亀教会・普通寺教会の信者が集い、大雨で出席者の数を心配していたが、ミサが始まる頃には外国人信者も含め80名ほどが出席し、諏訪司様司式でミサ

から始まった。ミサが始まる前に、香川地区西讃ブロックの聖体奉仕者、集会祭儀司会者の任命式があり、丸亀

丸亀教会・普通寺教会から竹本孝氏、太田肇子氏、普通寺教会から多田繁夫氏が諏訪司様から任命証書を授与された。ミサの中で、諏訪司教

様と一緒に来られたウイリアムス・R・T氏が、誦読司教様のお説教を同様に通訳され、多くのフィリッピンの人達にも理解

料理も振舞われ、賑やかな信徒会館であった。食事の後は、日本人グループは聖堂で司教様から「社会の中に生きる教会」についてのお話があり、福音マーケットの中から導き出された、教会の持っている良いところを皆で考え、その後各グループに分かれて分かち合いを行った。

信徒会館では、外国人グループがウイリアムス・R・T氏を中心とした話

丸亀教会では、パスクワル神父様の発案で、信

丸亀教会 太田 修



鳴門教会でのミサ

教会共同体が、それぞれの人々の悩みに寄り添うことができる、気兼ねなく語ることができる場所であることを大切にしたいことを改めて感じました。

教会共同体的な思いを整理し、深め、確認することを中心に行われました。そのために、1・聞く、2・問いかける、3・書く、4・話す、5・沈黙、という宝さがしの5つのポイントを基本姿勢として、人の話をよく聞き、尊重し、沈黙の中、自分と向き合う、という分かち合いでした。

閉会の挨拶の中で、スティーブ神父様が言われた「お昼のお接待のそば米汁がとってもおいしかったので、私はおかわりをしました。」

教会も一度行ったらまた行きたい!と思えるようなところになったらいいと思います。」と。おかわりをしたくなる

清家由美

小豆島で香川宗教者平和懇話会

カトリック高松教区 本部事務局長 西川康廣



小豆島で香川宗教者平和懇話会

香川宗教者平和懇話会は2006年に京都で開催された第8回世界宗教者会議(WCRP)を機に結成した。

同年8月に「ポストコングレスin四国」を開催し、その後香川県宗教界の有志が、3ヶ月ごとに各宗教団体を回りながら懇話会を開いている。

十字架の麓で合同祈禱会

高山右近の潜伏地も巡礼

真宗(大谷派)、禅宗(妙心寺派)から約15名が参加している。

香川宗教者平和懇話会は巡礼開催も目標としている。パチカン巡礼から始まり、比叡山、スベ



大十字架の麓、参加者全員で平和祈禱を捧げる

一般参加者を加えて、宗教者平和懇話会の発祥の地の小豆島オリブ公園の十字架の麓で合流し、合同平和祈禱会を開催した。

その後高山右近の像が建立されている小豆島教会へ会場を移し、日向氏から映像を観ながら右近の足跡を学び、諏訪司教が高山右近の霊性について講話をした。

教区スケジュール

- 11月
- 1日 (木) 諸聖人
- 2日 (金) 死者の日
- 3日 (土) 文化の日
- 4日 (日) 年間第31主日
- 6日 (火) 司祭評議会10:00
- 8日 (木) 秋の一日司祭集会in善通寺
- 10日 (土) (第4回) 司教座聖堂建設委員会
- 11日 (日) 年間第32主日
- 17日 (土) 聖エリザベト (ハンガリー) 修道女 宣教司牧評議会役員会13:00
- 18日 (日) 年間第33主日「聖書週間」(～25日) 「世界貧しい人の日」
- 21日 (水) 聖マリアの奉獻
- 23日 (金) 勤労感謝の日、正義と平和全国大会in名古屋 (～25日)
- 25日 (日) 王であるキリスト (年間第34週)
- 30日 (金) 聖アンテレ使徒
- 12月
- 1日 (土) 教区の将来を考える会13:30
- 2日 (日) 待降節第1主日 宣教地召命促進の日 祭壇奉仕者選任式 in司教座聖堂
- 3日 (月) 日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭一粒会の集い
- 8日 (土) 無原罪の聖母マリア
- 9日 (日) 待降節第2主日
- 13日 (木) 第2回臨時司教総会
- 16日 (日) 待降節第3主日
- 23日 (日) 待降節第4主日 天皇誕生日
- 24日 (月) クリスマス・イブ 振替休日
- 25日 (火) 主の降誕
- 27日 (木) 聖ヨハネ使徒福音記者祝日
- 28日 (金) 幼子殉職者
- 30日 (日) 聖家族 中島町教会 樽谷英賢

西日本豪雨被害の宇和島で奉仕



人と人の協力や 優しさを知る機会

9月16、17日に宇和島へボランティアに行かせて頂きました。16日21時30分頃宇和島へ到着。宇和島教会の信者さんがむかえてくれました。

以前にいられた方のボランティア内容をボランティアノートで確認し、明日のために備えました。17日、朝9時すぎに宇和島社協へボランティア手続きを行い、ひと団体になるまで待つよう指示

高松教区から2名と西条や西予市から来られた方々8名が揃ったところで現地へバスで出発。仕事内容は床下の泥の掻き出しでした。

現地へ行くボランティアのNPO法人「結」さんからは泥の掻き出しについて説明を受けました。泥はすぐ撤去するのではなく少し乾きヒレが入ったくらいのところを取ると土と泥の境がわかりやすいとの事でした。

床下4人プラスNPO法人結さんの、泥をトラックまで運ぶ地上4人で作業を開始しました。床下は風が通らず暑いので30分くらいに1回休憩を挟み、水分をとりました。

家の持ち主の方も気がかけて下さり、大変な思いをしながら飲み水を持ってきてくださいました。トラック2台分と土嚢を沢山作り、終了時間の15分前に終わることが出来ました。

9月17日に、愛媛県宇和島市の吉田町に災害ボランティアに行ってきた。行った家はスマホの電波が圏外になるほどの山の中でした。横を流れる川が増水して被害にあったということでした。

ボランティアでは、家屋の下にたまった泥を出す作業を行いました。大量にたまって、カビが発生しているところもありました。住人一人では絶対にできない重労働

床下にたまった泥 運び出す作業に汗

9月17日に、愛媛県宇和島市の吉田町に災害ボランティアに行ってきた。行った家はスマホの電波が圏外になるほどの山の中でした。横を流れる川が増水して被害にあったということでした。

ボランティアでは、家屋の下にたまった泥を出す作業を行いました。大量にたまって、カビが発生しているところもありました。住人一人では絶対にできない重労働



大量にたまって、カビが発生しているところもありました。住人一人では絶対にできない重労働

京都でネットワークミーティング

去る9月22日と23日に全国のカトリックの青年大会「第35回ネットワークミーティング」が京都府立青少年海洋センター「マリリンピア」で開催され、高松教区の青年は初参加も含めて8名が参加しました。

今回は全国から約170人の青年が集い盛大な活動となりました。特に私の心に残っているプログラムは2日目に行われた黙想と分かち合いです。

テーマはルカによる福音書5章1～12節の部分です。

①自分とイエス様ってどんな関係。

②ペトロは沖へ出て魚を捕ることを仕事としています。あなたにとっての沖(日常生活フィールド)はどこですか。そこであらうと思います。

ボランティアは現状で人数が足りていません。支援の輪が広がると嬉しいです。

中島町教会 樽谷英賢

イエス様とはどんな関係？ 青年ら話し合い、祈り、黙想

③イエス様は「あなたは人間をとる漁師になる。」といわれまし。イエス様は「声をかけられたあなたはどう変わるでしょうか。あなたの何が変わるでしょうか。あなた「未知の世界へあゆみを進める」ことをしてくださいというお話がとても心に響きました。

④それでイエス様は何を求めていますか。この言葉をこれからの生活に生かしていければと思います。

次回第36回ネットワークミーティングは、岡山県周辺の自分らの好きなところ、宿泊施設、クミューティングは、岡山県の子大、一宮校舎で開催されます。多くの高松教区の青年たちと一緒に参加したいと思えます。皆さんの参加を期待します。

最後にこの度、ネットワークミーティングの参加にあたり支援をしてくださった高松教区の関係者の皆様、ありがとうございました。

カトリック松山教会 竹田真生

これまで私は同世代と信仰について黙想や分かち合いました。



香川大学が挑むカンボジアのトイレ増設プロジェクト

このプロジェクトは清水裕子氏(八幡浜教会信徒)がリーダーとして、2017年3月からカンボジア、カンダール州カンダールスタン郡で学校保健室を軸として学校保健システム、人材育成モデルを構築するというJICA草の根事業です。

現地で衛生教育、人材育成を始めたところ、小学校にトイレがない、足りない、壊れている等の状況や32校の小学校のうち3校にのみしか手洗い場がなく、壊れる頻度も高い状況です。

これはJICAでは対応対象外の内容であるため、徳島大学のクラウドファンディングサイトを拝借して開始されています。

しかし国内で災害が多発し、なかなか寄付が集まらない上、9月20日～12月15日までの短期実施で、見通しさえ立たない状況です。そこで信徒の皆様にも呼びかけることになりました。ご協力を何卒宜しくお願い致します。

クラウドファンディングは、上記ULM上段と、下段から入れます。

郵便振込口座は下記の通り。

口座番号 01630 4 69932
加入者名: 一般社団法人大学支援機構
通信欄: 香川大学カンボジアのトイレ増設プロジェクト支援コース



神を観想し、その実りを人々に伝えよ

聖ドミニコ宣教修道女会

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう

暁の星学園

鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園

編集後記

今、日本社会は高齢化による社会問題が噴出し、年金、社会福祉、医療での経済負担など多くの不安の中にあります。

これはそのまま、現在の日本のカトリック教会の姿ともいえません。本教区も同様に、高齢化による経済・小教区建物劣化・召命問題等によって、次世代へ負の遺産を残してしまうかも知れません。レプトン銅貨2枚を捧げた老婦の信仰を黙想し、私たちが今一度信仰の中で真剣に考えるよう促されています。

(J)